

居安思危 vol.3

平成 26 年 7 月 9 日
大阪府立大手前高等学校
発行 大川 香理

居安思危 思則有備 有備無患

安きに居りて危うきを思う 思えばすなわち備えあり 備えあれば患い無し

(出典「春秋」の注釈書「春秋左氏伝」)

ここ数年、梅雨の終わりから秋にかけて、局地的な大雨や雷、竜巻が頻発しています。毎年のように大雨や竜巻の被害が報道され、不幸にして落雷による死者が出ることもあります。今回の「居安思危」ではこれらの急な大雨や雷・竜巻から身を守るためにはどうすればいいのか、被害を最小限に抑えるためにはどうしたらよいかを一緒に考えたいと思います。

7月に入って短縮になり、午後はクラブ活動に精を出す人も多くいます。そして来週からはいよいよ夏休み。旅行を計画している人もいるのではないのでしょうか。夏のイベントを安全に行い、楽しい思い出にするためには情報収集が大切です。

屋外での活動が予定されているときには事前に必ず天気予報を確認しましょう。天気予報で注意しなくてはいけないキーワードは「雷を伴う」「大気の状態が不安定」「竜巻などの激しい突風」などの言葉です。これらの言葉が使われていたら、天気の急変に備えておく必要があります。気象台では毎日5時、11時、17時に天気予報を発表しています。また、気象庁では降水、雷、竜巻の状況を1時間先まで予測した分布図(ナウキャスト)を発表しています。各ナウキャストは5分または10分毎に最新の情報に更新されるので、屋外で活動するときにはこまめにチェックするとよいでしょう。(右上の防災情報提供センターのQRコードからナウキャストを確認することができます。)

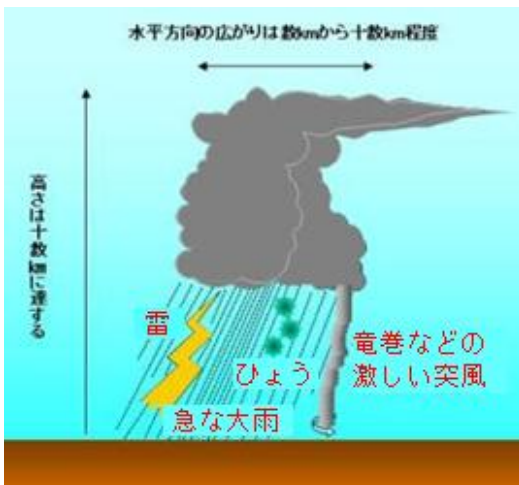


防災情報提供センター

屋外で活動しているときには気象情報をこまめに確認しつつ、空の変化にも注意が重要です。夏の雲といえば入道雲が真っ先に思い浮かぶことと思いますが、この入道雲(気象用語では積乱雲といいます)の下では急な大雨や雷、竜巻が発生し、大きな被害につながる可能性があります。

積乱雲は地面付近の暖かい空気が上昇すると上空の冷たい空気とぶつかり空気が対流することで発生します。暖かい空気は上空に行くに従って空気中に含まれる水分が凝結して

雲を作ります。積乱雲は垂直方向に発達し、雲の高さは10kmを超え、時には成層圏まで達することもあります。高さとは逆に水平方向への広がりには数km~十数kmほどで、局地的な狭い範囲に激しい雨を降らせます。また、時間も短く30分~1時間程度ですが、1時間に100mmを越すような猛烈な雨を降らせることもあります。成長しつつある積乱雲は雲のてっぺんがモクモクと沸き立ち、カリフラワーのような形をしています。さらに発達すると雲のてっぺんが周りに開きキノコの傘の様な形になります。遠くにある積乱雲は太陽に照らされると白く輝いて見えますが、積乱雲の底は太陽の光が遮られ、真っ黒になります。



積乱雲の構造

以下のような変化を感じたら積乱雲が近づいている兆しです。間もなく激しい雨と雷がやってきます。時には竜巻などの激しい突風が起きることもあります。速やかに安全な場所に避難しましょう。

短時間に激しい大雨が降ると地下に水が流れ込むことがあるので、地上より上の階にいるようにしましょう。雷のときは車や列車の中も安全ですが、竜巻の時には車も飛ばされてしまうので危険です。また、激しい風で飛んできたものが窓を突き破り、部屋にガラスが飛び散る恐れがあるので、窓に近づかず、テーブルの下など飛んでくるものから身を守る場所に避難しましょう。風雨が収まって雷が聞こえなくなっても20分くらいは無闇に外へ出ないでください。

- 真っ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる。
- ヒヤッとした冷たい風が吹き出す。
- 雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする。
- 大粒の雨や「ひょう」が降り出す。

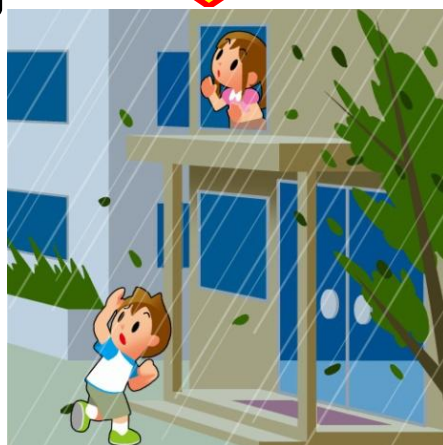


● 真っ黒い雲が近づいてきた ● ヒヤッとした風が吹いてきた ● 雷の音が聞こえてきた

**安全第一
こんなときはすぐに避難！**

**自分は大丈夫！と
思わないで！**

早めの避難行動が身を守ります。
周りの家族や友人にも声をかけて率先避難者になりましょう。



直ちに丈夫な建物などに
しばらく避難しましょう！

**雷鳴が聞こえてきたら
すぐに避難！**

雨宿りで木の下に入るのは大変危険です。（側撃雷といって、木に落ちた雷が人に飛び移ることがあります。）

特にサッカー場や野球場など周囲が開けた場所にいるときにはすぐに建物の中に避難しましょう。

人には危険が目の前に迫っていても、「たいしたことはない」「自分は大丈夫」と思ってしまう傾向があります。こうした気持ちに惑わされずに、危険の兆しを見つけたらすぐに身を守る行動を取りましょう。

裏面には台風から身を守るためにどうすればよいのかを記しています。今週末にかけて台風が近づいていますので、ぜひ参考にしてください。